

# ザゼンソウ

*Symplocarpus foetidus var. latissimus*

サトイモ科

## 名前の由来

花のようすが、僧が坐禅しているのに似ていることから名付けられた。英名では「スカンク・キャベツ」といい、花はその名のとおり腐ったキャベツの匂いがする。  
漢字名：坐禅草



ザゼンソウ

## 形態的特徴

地面から直接で赤いフードをかぶったような花の姿が印象的。葉はハート形で厚ぼったく、2~7枚が根元からのび、花が終わった後に大きく展開し、長さ40cmに達する。花は、暗紫色の小さな花が球形~卵形に密生した肉穂(にくすい)

と呼ばれる形体をとり、暗赤色で肉質の仏炎苞(ぶつえんほう)とよばれるフードに取り囲まれている。花には臭気がある。

## 類似種と見分け方

ヒメザゼンソウ。

ザゼンソウと形体がよく似ているが、ヒメザゼンソウは開花の前に葉を広げ、花の時期には葉が枯れていることで見

分けることができる。また、ザゼンソウが4月~5月に開花するのに対して、ヒメザゼンソウは6月下旬~7月に開花する。



ザゼンソウ。中心に小さな花が集まった黄色っぽい肉穂が見える



ザゼンソウ。黄色っぽい個体もあり、アオザゼンソウと呼ばれる



ザゼンソウ



ザゼンソウ

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期		■										

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(草原・樹林)  
ワシタカ  
鳥類

## 生育環境・分布

林内の湿ったところや湿地に生育する。

分布：国外分布は、朝鮮・アムール・ウスリー・樺太。

国内分布は、北海道・本州。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、林内の湿ったところや湿地に生育する。



ザゼンソウ。早春に湿った場所によく見られる

## 生活史

開花時期：4月中旬～5月

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

## 他生物との関わり

ザゼンソウの肉穂は化学反応で熱を出し、仏炎苞のフードに囲まれた中は外より5℃近く温度が高くなっている。それはこの花が咲くころはまだ寒く、花粉を運ぶ昆虫の動き

も活発でないため、虫達をフードの中で暖めて、活発に花粉を運ばせるためだという。

## 興味深い話

■ザゼンソウの肉穂は化学反応で熱を出し、仏炎苞は外気より高い温度に保たれている。そのため、春先に雪が残っていてもザゼンソウの周りだけ雪が解けている。

■ザゼンソウの肉穂は化学反応で熱を出し、仏炎苞のフードに囲まれた中の部分は外より5℃近く温度が高くなっている。それはこの花が咲くころはまだ寒く、花粉を運ぶ昆虫の動きも活発でないため、虫達をフードの中で暖めて、活発に花粉を運ばせるためだという。



ミズバショウの葉



ザゼンソウ。開花後に葉がのびる



ザゼンソウ。葉が開きつつあるが、花はもう枯れている

## 配慮事項

生育している環境全体が重要である。

### 参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜」滝田謙譲 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「サトイモ科ミズバショウ 週間朝日百科 植物の世界123」邑田仁 朝日新聞社 1996

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類  
ワシ・タカ